

# 東京学芸大学附属図書館概要



2023

## 特色

P.1

- ・1. 東京学芸大学附属図書館の特色
- ・2. 東京学芸大学附属図書館の使命と目標
- ・3. 最近の活動
- ・4. 加盟組織

## 利用案内

P.9

- ・1. 開館時間
- ・2. 各種サービス時間
- ・3. 貸出冊数・期間
- ・4. インターネットサービス

## 組織

P.10

- ・1. 組織
- ・2. 職員数
- ・3. 歴代附属図書館長
- ・4. 学術情報会議名簿

## 所蔵資料

P.12

- ・1. 特別コレクション
- ・2. 電子ジャーナル
- ・3. 電子ブック
- ・4. オンラインデータベース
- ・5. CD-ROM, DVD-ROM
- ・6. デジタル教科書
- ・7. 自館作成デジタルコンテンツ

## 施設・設備

P.17

- ・1. 図書館施設
- ・2. 主要設備

## 統計

P.19

- ・1. 主たる利用対象者数
- ・2. 蔵書
- ・3. 利用状況
- ・4. 相互協力
- ・5. 市民への公開
- ・6. 機関リポジトリ
- ・7. デジタルアーカイブ 登録コンテンツ数
- ・8. 資料費等予算

## 広報

P.23

- ・1. 出版物
- ・2. ウェブサイト

## 沿革

P.24

## 平面図

P.30

# 特 色

## 1. 東京学芸大学附属図書館の特色

本学は教育系大学として長い伝統と実績を有し、教育に関する研究、教員養成に関する教育・研究の中核的な役割を果たしてきた。附属図書館は、それらに資するため、教員養成や教育に関する資料の体系的な収集に努め、約91万冊の図書、約1万2千タイトルの雑誌等による蔵書を構築してきた。特に、往来物や明治期初年以来の初等教育の教科書等を含む「望月文庫」をはじめ、近世庶民の教育資料である絵双六を集めた「双六コレクション」など、貴重な教育関係資料のコレクションの充実を図ってきた。我が国の戦後の小学校・中学校・高校の教科書、学習指導要領については、網羅的な収集を行っており、研究者をはじめ、教員を目指す学生や現職教員などの幅広い利用者のニーズにこたえている。

本学のこうした特色ある蔵書をデジタルアーカイブとし、また、本学教職員の研究成果の保存・公開を東京学芸大学リポジトリにより公開するなど、インターネット上での情報発信にも力を注いでいる。

平成25年度補正予算により、平成26年6月から平成27年3月にかけて、昭和49年に建築された図書館建物の耐震性能の強化を行うとともに、全面改修を行った。平成27年5月に全面リニューアルオープンした附属図書館にはラーニングコモンズが設置され、アクティブ・ラーニングへの対応が図られた。

さらに、2019年度国立大学法人等施設整備実施計画協議予定事業に採択され、令和2年1月より教職大学院アクティブラーニングスペースと合わせて図書館増築を実施し、ラーニングコモンズ・閲覧席の大幅拡張とインフォメーションコモンズの整備や、貴重書庫の整備・地下書庫の拡張による収蔵能力増強、大学史資料室の整備を行った。これは、創造力と実践力を身につけ、今日の学校教育における諸課題に積極的に取り組む教員を養成する本学のミッション実現のため、附属図書館が「教えあい学びあう」知の創造と循環を生み出す拠点となるという使命を形にしたものである。



図書館公式キャラクター「まなぶんぶん」

(平成30年3月 学内公募により誕生)

## 2. 東京学芸大学附属図書館の使命と目標

[「東京学芸大学附属図書館の使命と目標 ～デジタル社会の教育を支える「知の循環」の再構築～」より抜粋]



### 東京学芸大学附属図書館の使命

東京学芸大学附属図書館は、大学の使命を果たしそのビジョンを実現するために、質の高い学術情報を提供し、教育研究及び学生の学修を支援する拠点の一つとして機能する。デジタル化が一層進展する社会において、蔵書を超えた知識や情報の共有の取組みを進めるとともに、新たな知を紡ぐ場を提供し、「知の循環」を再構築していく必要がある。また、教育現場の支援のために地域社会との連携を進め、さらに世界に向けて本学の研究成果を発信する。



### 東京学芸大学附属図書館の目標

#### □ 学術情報基盤の整備

デジタル社会への不可逆的な進展を見据えつつ、日本の教員・教育支援者養成の中核的大学として、新たな教育研究基盤の確立に寄与するため、紙媒体・デジタルを問わず、質の高い学術情報を提供する。来館型サービスに加えて非来館型サービスの充実に努める。また、図書館職員は学術情報の組織化と利活用についての専門知識の習得及び能力向上に努め、学術情報の適切な収集、保存、提供を実現するとともに教員及び学生の研究・教育を支援する。

#### □ 学生の学修を支援する拠点の一つとして機能

予測不可能な社会の変化に対応し、深い思索を伴った学びを促進するため、学修支援環境の整備を行い、学生のアクティブ・ラーニングを支援する。学生の学びの連続性を確保するためにも、学校図書館との連携を図っていく。また、GIGA スクール時代に対応したリテラシー教育を強化する等により、教員・教育支援者養成の実践の場を提供し、知の創造・発信拠点として「知の循環」を促す。

#### □ 教育現場、地域及び国際社会に貢献

本学の研究成果及び教育コンテンツのアーカイブと発信の機能を強化し、広く国内外へ還元するほか、図書館の活動を通して現職教員への支援を行う。また、将来の社会変化に伴う多様な利用者を想定し、生涯学習社会における役割を果たし、地域の活性化に貢献する。

※ 『東京学芸大学附属図書館の使命と目標』は、令和3年度第2回学術情報会議で決定された  
(令和3年10月25日)。

### 3. 最近の活動

## デジタル教科書の導入と普及活動

### \* デジタル教科書の導入

令和4年4月1日より、附属図書館1階ラーニングコモンス資料エリアにデジタル教科書コーナーを設置した。本学の学生・教職員に限り、デジタル教科書を閲覧できる。また本コーナーとは別に、1階の好きな場所でデジタル教科書を閲覧できる貸出用PCの提供も開始した。貸出用PCは館内の電子黒板につないで利用することもできる。



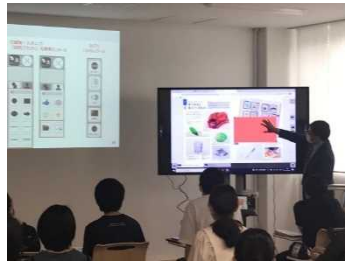
### \* 「デジタル教科書・教材に関する協定書」締結

令和4年11月にデジタル教科書を活用した教育情報化推進のため、「東京学芸大学デジタル教科書・教材に関する協定書」を教科書発行者4社（教育出版、大日本図書、東京書籍、日本文教出版）と締結した。本協定に基づき、本学教員および学生は、各社が提供する指導者用・学習者用デジタル教科書・教材を学内で使用できるようになった。

### \* デジタル教科書講習会の開催



(令和4年4月 東京書籍)



(令和4年6月 日本文教出版)

「デジタル教科書・教材に関する協定書」に基づき、令和4年度は、東京書籍、日本文教出版による講習会を開催した。

### \* 学習サポータによるデジタル教科書セミナー

デジタル教科書利用促進を目的に学習サポータがデジタル教科書セミナーを開催した。春学期のセミナーでは、各回3教科取り上げ、それぞれの機能を紹介した。秋学期は、グループワークを取り入れ、参加者とともに様々なテーマでデジタル教科書の活用について考えた。



(令和4年6月 第2回)



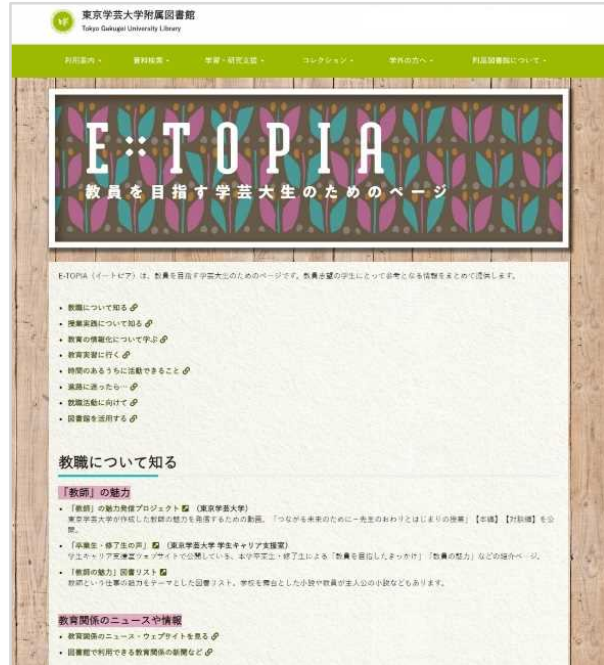
(令和4年12月 第8回)

<https://lib.u-gakugei.ac.jp/learning/textbook>

## E-TOPIA のリニューアル公開

平成13年より運用していた「E-TOPIA」について、令和5年3月22日に「E-TOPIA：教員を目指す学芸大生のためのページ」としてリニューアル公開した。新しいページでは、教員を目指す学生にとって必要となる情報を一元的に提供することを目的として、学生の学びや活動の過程に沿ったページ構成を行い、お薦めの図書館資料リストのほか、映像コンテンツやニュースサイト、授業支援プラットフォーム等の教育関連情報を提供している。本ページの構成は、次のとおり。

- ①「教職について知る」
- ②「授業実践について知る」
- ③「教育の情報化について学ぶ」
- ④「教育実習に行く」
- ⑤「時間のあるうちに活動できること」
- ⑥「進路に迷ったら...」
- ⑦「就職活動に向けて」
- ⑧「図書館を活用する」



<https://lib.u-gakugei.ac.jp/etopia>

## ラーニングコモンズを拠点とした学習支援活動

### \* 学習サポータの活動概要

「学習サポータ」とは、活動を通して附属図書館の活性化を図る本学学生スタッフであり、主に以下の活動を展開している。

- (1) ラーニングコモンズ内のセミナー等学習支援の企画・実施
- (2) ラーニングコモンズ内展示企画立案、実施
- (3) ウェブサイトの更新, SNS の更新(Instagram, Twitter)



### \* 令和4年度の主な活動

#### 【セミナー】

デジタル教科書セミナーを春学期に4回、秋学期に6回、計10回開催。

#### 【展示】

- ・「学習サポータおすすめ本」(令和4年4月～12月)
- ・「サークル×本展」(令和4年7月～令和5年1月)
- ・「新書ZOO」(令和5年1月～)

#### 【第7回全国学生協働サミットへの参加】

全国学生協働サミットは、図書館総合展の一企画として毎年開催され、学生協働に関わる全国の



(サークル×本展)

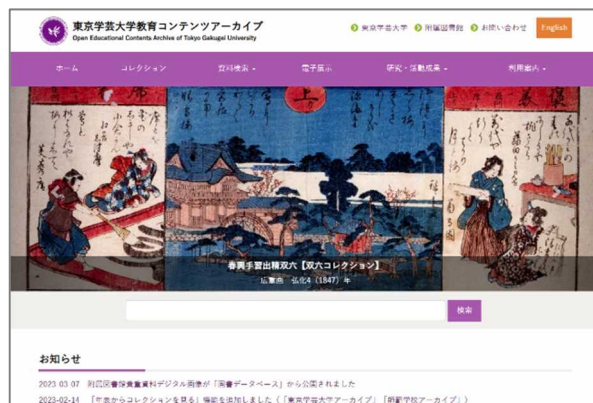
学生・教職員が集い、活動について報告・交流を行っている。令和4年度、本イベントに当館学習サポーターが参加し、活動紹介や他大学学生との情報交換を行った。コーディネーターの先生方からは、特にデジタル教科書利用に関する学生目線からの支援が評価された。

<https://lib.u-gakugei.ac.jp/learning/supporter>

## 「東京学芸大学教育コンテンツアーカイブ」の公開と展開

令和4年5月9日に、本学の教育・研究活動成果としてのデジタル資源を収集・公開する「東京学芸大学教育コンテンツアーカイブ」をリリースした。

本サイトは、旧サイト「東京学芸大学附属図書館デジタルアーカイブ 学びと遊びの歴史」を継承し、「往来物」「明治期教科書」「絵双六」といった当館特別コレクションを公開した。この他、学内他部署との連携により、「現職教員研修 WEB サイト」で発信される学校教員のための研修動画、移り変わるキャンパスの風景を捉えた「キャンパスアーカイブ」、本学の大学史資料である「東京学芸大学アーカイブ」「師範学校アーカイブ」を公開し、大学全体としてのデジタルアーカイブの機能も担っている。



<https://d-archive.u-gakugei.ac.jp>

### \* データ利活用の促進

公開画像データはデジタル化画像を相互運用するための国際的枠組みである IIIF (International Image Interoperability Framework) に対応し、高精細画像を多様なビューワーで利用できる。

また、附属図書館コレクションについては、本文データおよびメタデータにクリエイティブ・コモンズ・ライセンスを付与し、オープンなデータとして提供している。

さらに、学校教育現場での利活用促進を目的として、学校教材として活用できるコンテンツに対して学習指導要領コードの付与、「みんなで翻刻」(<https://honkoku.org/>) によって進められた翻刻データの紐づけを行っている。「S×UKILAM (スキラム連携):多様な資料の教材化ワークショップ」(<https://wtmla-adeac-r.com/>) に参加し、本サイトを活用した教材開発にも取り組んでいる。

## オープンアクセスの推進

学内研究成果のオープンアクセスを推進するため、教員や学内関係部署との連携により対応を進めている。令和3年6月に機関リポジトリシステムを JAIRO Cloud (WEKO2) に移行したが、今後、次期 JAIRO Cloud (WEKO3) への移行を経て、最新メタデータスキーマである JPCOAR スキーマに対応し、NII 研究データ基盤 (NII Research Data Cloud) からの流通を目指している。

令和5年3月には「国立大学法人東京学芸大学オープンアクセス方針」を制定し、本学研究成果としての論文等の公開方針について定めた。また、研究データ公開対応に向けて、学内 WG を発足し、ポリシーの策定、NII データ管理基盤 (GakuNin RDM) の導入・試験運用を開始している。

## 東京学芸大学附属図書館〈未来の先生支援〉古本募金

### ～本の力で、ともに育てる。未来の先生応援プロジェクト～

平成 28 年 10 月から古本募金を開始した。学内外の方から、読み終えた本をご寄付いただき、その売却代金で学生のための本を購入するプロジェクトである。令和 2 年度から申込サイトがチャリボン<charibon>にリニューアルされた。開始からこれまでに累計 60 万円以上の寄附をいただき、500 冊以上の図書を購入し、令和 4 年度は ICT 教科教育関係図書を購入した。詳細は図書館の古本募金事業ウェブサイトに掲載している。

<https://lib.u-gakugei.ac.jp/about/donation>

## 附属学校図書館との連携

### \* 附属学校展示

平成 28 年より、2 階展示コーナーに於いて各学校図書館による展示を行っている。

- (1) 「附属国際中等教育学校における授業実践」(令和 4 年 6 月 10 日～10 月 4 日)

※中学 1 年生技術科の授業実践の紹介と成果物であるブックスタンドを展示

- (2) 「附属高校展示 働くことのリアルに迫る」(令和 4 年 10 月 7 日～令和 5 年 3 月 24 日)

※公民の授業で生徒が作成した新聞を展示。就活に励む学芸大生へのメッセージとして「働くことのリアルに迫る」をテーマに様々な労働問題が取り上げられた。

### \* GAKUMOPAC の運用

令和 3 年 12 月に株式会社カーリルの連携・協力を得て、附属図書館および本学附属学校 10 校の図書館と 1 園舎、附属学校近隣の図書館等の蔵書をまとめて検索できる「GAKUMOPAC」を公開、運用している。本データベースは附属学校図書館に検索環境を提供し、本学学生が教育実習前に附属学校の蔵書を知る機会を生み出している。



<https://www2.u-gakugei.ac.jp/~schoolib/gakumopac/>

## 多様な読書推進企画の実施

### \* 展示

- ・「授業用図書が電子ブックで読めます！」

(令和 4 年 6 月 21 日～8 月 9 日)

附属図書館の 1 階新着図書コーナーにおいて、電子ブックの利用促進を図るため、電子ブックで購入したシラバス掲載図書に関する展示を実施した。展示にあたっては、持ち帰り用に電子ブックのアクセス QR コード付きのチラシを置き、電子ブックの利用方法などを掲示した。





・「電子ジャーナルを使ってみよう！」(令和4年11月14日～12月2日)

令和4年11月14日から12月2日の期間に、電子ジャーナルの利用方法や、本学学生に向けたおすすめ電子ジャーナルを紹介する展示を実施した。

・「学芸大版 りんごの棚」(令和4年7月～)

令和4年7月より、ラーニングコモンズ内に、  
**〈学芸大版「りんごの棚」〉**を設置した。「りんごの棚」は、障害などを持つ子供たちが読書を楽しむことができる資料を集めた本棚のことである。LLブック、大活字本、手話DVD、点字の本、さわる絵本、布絵本、マルチメディアDAISY関連書など、特別支援教育で使える資料を紹介している。



・「メビウスの帯」(令和4年7月)

令和4年7月に附属図書館ラーニングコモンズで実施した小展示。大学院修士課程「教育支援協働学概論」の一環として、大学院生がExplaygroundのラボ「MOL Möbius Open Library」と協力して実施した。附属小金井中学校の生徒が大学図書館の中から選んだ本をコメント付きの帯とともに展示した。

・「Labosui」(令和4年7月～)

令和4年7月より、図書館1階ラーニングコモンズ グローバルエリアで実施している展示。Explayground ラボの一覧とラボからのおすすめ本を展示している。展示している本は貸出手続き不要で持ち出すことができ、付属の感想ノートにコメントも記入可能。おすすめ本を介したラボとの出会い、コミュニケーションの創出を目指している。

**\* 読書推進企画**

・学芸本ガチャ

令和4年より読書推進を目指し、「学芸本ガチャ！：読書の世界を広げよう！」を開始した。本企画では、オンラインとリアルで本の情報が入ったガチャガチャを設置している。特にオンラインガチャは、電子ブックの利用促進を目的としている。リアルガチャは、指示書により棚へ導くほか、図書館職員おすすめ本等企画ごとのテーマで楽しめる。



## 4. 加盟組織

### ・ 国立大学図書館協会 (JANUL)

#### \* 「未来の先生のためのラーニングコモンズ」

国立大学図書館協会が実施する「インタビュー・シリーズ 新たな知のケミストリー：LIBRARY 2025」において、当館のラーニングコモンズが紹介された。この取り組みは、国立大学図書館の多様な事例を紹介し、「場」や「人」が触媒となって新しい知を紡いでいく大学図書館の姿を、広く社会に発信することを目的としている。



「未来の先生のためのラーニングコモンズ」を目指して当館が行った、コロナ禍でのラーニングコモンズのリニューアル、本学学生の活動、デジタル教科書コーナーの新設やセミナーの実施等について紹介した。

### ・ 国立教育系大学図書館協議会 (JANUEL)

#### \* 国立教育系大学図書館協議会サブ・コンソーシアム

国立教育系大学でサブ・コンソーシアムを組み、Elsevier社の電子ジャーナル・パッケージ製品について、平成17年以降、本学が契約窓口となり一本化した契約を行っている。大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) 提案を基本としつつ、教育系大学の事情に配慮した措置が適用されている。令和5年現在、本学を含む9大学が参加している。

#### \* 教育系サブジェクトリポジトリ構築事業

国立教育系大学を中心に私大なども含め6大学（大阪教育大学、兵庫教育大学、奈良教育大学、愛知教育大学、上越教育大学、文教大学）の協力を得て、リポジトリのメタデータに教育主題情報を付与する事業を行っている。「学術機関リポジトリデータベース (IRDB)」や「CiNii Research」などのサイトで、学校種別や教科名から教育関連情報を検索可能とすることを目的としている。

<https://www2.u-gakugei.ac.jp/~library/edusr/>

### ・ オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR)

令和元年度より、当館は同協会に運営委員および作業部会員を派遣している。令和4年度も引き続き、同協会に運営委員 (1名)、作業部会員 (コンテンツ流通促進作業部会：1名) を派遣し、リポジトリを通じた知の発信システム構築の推進、我が国のオープンアクセス・オープンサイエンスに資する活動を行った。

### ・ 大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE)

大学図書館コンソーシアム連合では、日本の大学における教育・研究活動に必須である電子ジャーナルをはじめとした学術情報を、安定的・継続的に確保して提供するための活動を推進している。当館も加盟し、電子ジャーナル契約に向けた情報収集、交渉等を行っている。

# 利用案内

## 1. 開館時間

	授業期	休業期
月～金	8:30-21:30	8:30-17:00
土・日・祝日	11:00-18:00	

## 2. 各種サービス時間

	平日		土・日・祝日	学外者 可否
	授業期	休業期		
書庫入庫/出納	8:30-21:00	8:30-16:30	11:00-17:30	出納のみ可
修士・博士論文閲覧室利用				可
グループ学習室の利用				----
セルフコピー				可
マイクロ資料利用	8:30-12:00, 13:00-16:30		----	可
カウンター内でのコピー				----
貴重書利用(事前申請が必要)	8:30-16:30			可
レファレンス	レファレンス	8:30-17:00 (文献の受取は16:30まで)	----	可
他大学図書館の 利用	紹介状の発行			----
	文献取寄せ・借受			----

※ グループ学習室は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和4年10月まで利用を中止していたが、11月から利用を再開した。

## 3. 貸出冊数・期間

	貸出区分	冊数	期間
本学教職員及び学生 (教職員, 学部学生, 大学院生, 特別専攻科の学生, 研究生, 科目等履修生)	一般図書	12冊	1ヶ月
	雑誌	3冊	1日
卒業生, 現職教員 一般市民(満18歳以上, 他大学等に所属していない者)	一般図書	6冊	2週間

※令和2年度から令和4年度まで新型コロナウイルス感染症対策のため学外者の入構は制限されていた。そのため、一般市民は、近隣図書館の紹介状のある場合のみ閲覧を受け付けていた。

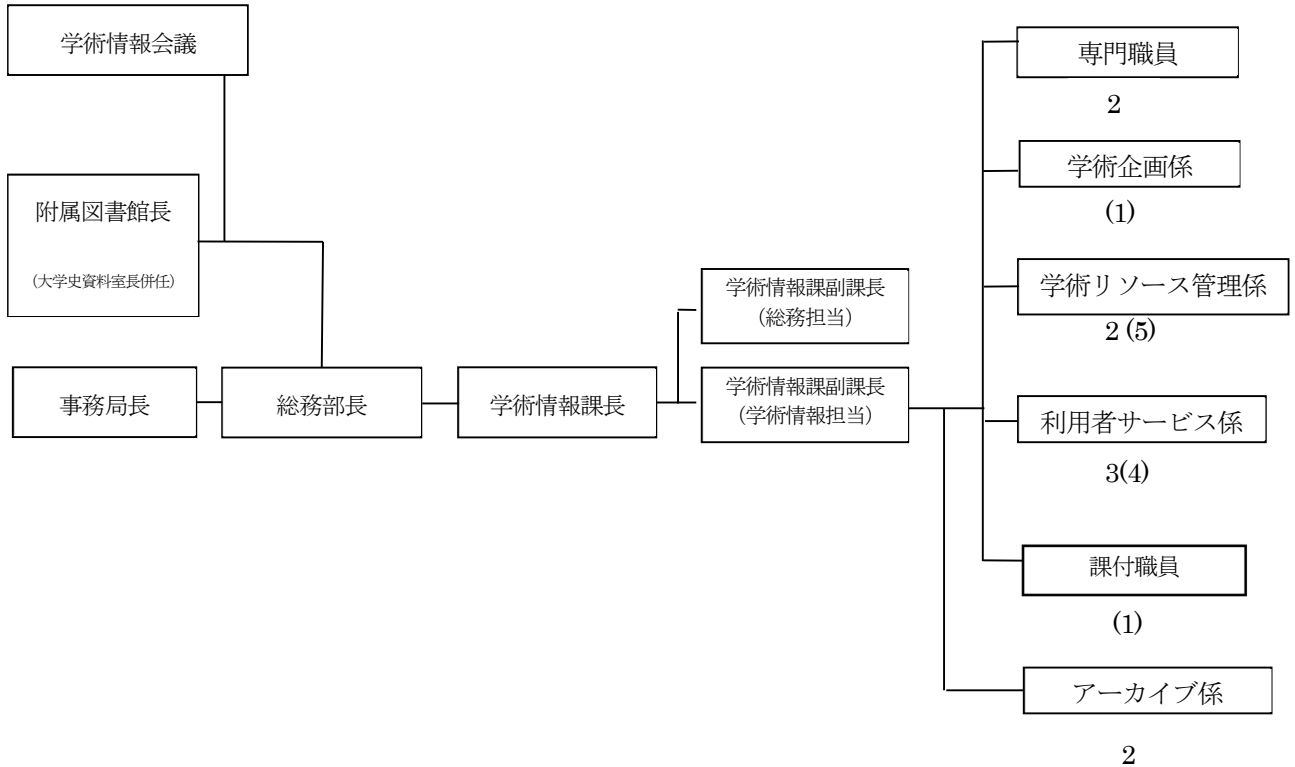
## 4. インターネットサービス

- ・ 附属図書館ホームページ (図書館からのお知らせ, 利用案内, 活動報告等を掲載)
- ・ OPAC(Online Public Access Catalog, 蔵書の約75%にあたる約700,000件が検索可能)
- ・ マイライブラリ (学内者のみ。インターネットを通じた利用状況照会, 各種申し込み)

# 組 織

## 1. 組織

(令和5年5月1日現在)



## 2. 職員数

(令和5年5月1日現在)

課 長	副課長 ・室長	専門職員 ・係長	主任・係員等	合 計
1	2	5	4 (11)	12 (11)

( ) 内は、  
非常勤職員  
数で外数

### 3. 歴代附属図書館長

氏 名	在職期間	氏 名	在職期間
阪 本 一 郎	昭 24. 7.31～昭 34. 3.31	小 林 文 人	昭 62. 4. 1～平 3. 3.31
久 富 貢	昭 34. 4. 1～昭 36. 3.31	野 村 東 助	平 3. 4. 1～平 5. 3.31
千々和 実	昭 36. 4. 1～昭 38. 3.31	大 井 清 吉	平 5. 4. 1～平 7. 3.31
岩 田 孝 三	昭 38. 4. 1～昭 43. 3.31	岡 本 靖 正	平 7. 4. 1～平 9.11. 9
桜 井 芳 朗	昭 43. 4. 1～昭 43. 5.19	水 田 徹	平 9.11.10～平 11. 3.31
鎌 田 正 宣	昭 43. 5.19～昭 43. 6.30	鷺 山 恭 彦	平 11. 4. 1～平 15. 3.31
大 内 進	昭 43. 7. 1～昭 46. 3.31	高 鷺 忠 美	平 15. 4. 1～平 16. 3.31
神 蔵 重 紀	昭 46. 4. 1～昭 48. 3.31	細 江 文 利	平 16. 4. 1～平 20. 3.31
藤 本 光	昭 48. 4. 1～昭 50. 3.31	出 口 利 定	平 20. 4. 1～平 22. 3.31
辻 本 芳 郎	昭 50. 4. 1～昭 52. 3.31	長 谷 川 正	平 22. 4. 1～平 24. 3.31
桑 原 経 重	昭 52. 4. 1～昭 54. 4. 1	藤 井 健 志	平 24. 4. 1～平 28. 3.31
稻 森 潤	昭 54. 4. 2～昭 58. 4. 1	大 石 学	平 28. 4. 1～平 30. 3.31
石 渡 毅	昭 58. 4. 2～昭 62. 3.31	川 手 圭 一	平 30. 4. 1～

### 4. 学術情報会議名簿(令和5年度)

所属・職名等	氏 名	備 考
附属図書館長	川 手 圭 一	職指定 委員長
総合教育科学系	君 塚 仁 彦	職指定 学系長
人文社会科学系	木 村 守	
自然科学系	國 仙 久 雄	
芸術・スポーツ科学系	中 地 雅 之	
図書館学	前 田 稔	委員長が必要と認めた者 総合教育科学系教育学講座
総務部長	西 條 英 吾	職指定

# 所蔵資料

## 1. 特別コレクション

### 1) 国内関係

望月文庫 (東京府青山師範学校創立50年記念文庫)	大正15年に東京府青山師範学校創立50年記念事業のひとつとして、師範教育に関する図書を集めたもので、望月軍四郎氏らの厚意によって設置された。往来物や明治初年以來の初等教育の教科書、教育書を含むコレクションである。(貴重図書)	7,627冊
松浦文庫	松浦鎮次郎氏を中心とする教育史編纂会が昭和13年に『明治以降教育制度発達史』を完成させ、会を解散させるにあたって、その図書、資料を東京府大泉師範学校に寄贈したもので、松浦氏自身の自筆草稿、教育法規、小学校教科書、教育史関係資料等が含まれる。(貴重図書)	1,470冊
日本近代教育史資料	江戸時代から戦前までの、往来物、双六、教科書、図書などの教育史関連資料。(貴重図書)	約6,700冊
双六コレクション (近世庶民教育資料)	小学尋常科高等科修業壽語禄、教育善悪子供双六、単語の図壽古呂久、女教訓出世双六など、近世庶民教育及び近世児童教育に寄与した江戸から明治にかけての双六コレクションである。(貴重図書)	191点
竹早文庫	東京第一師範学校女子部が昭和22年に戦時中文部省の外郭団体であった日本文化中央連盟の蔵書を一括購入したもので、哲学、史学、文学及び社会科学分野の図書、全集及び学術雑誌を含む。	約14,000冊
瀬川文庫	本学元教授の故瀬川三郎氏の旧蔵書を昭和44年に寄贈を受けたもので、ギリシャ文化・思想をはじめ、本学で教授された教育原理、教育哲学関係の図書等のコレクションである。	1,356冊
教育課程文庫	1947年初頭に米国から日本に寄贈された資料を中心に、米国の代表的教科書・教育専門書、日本の国定及び民間編集の教科書、学習指導要領等を含む。	7,910冊
西村文庫	西村四郎氏(サクラクレパス相談役)より寄贈された明治初期教科書『西画指南』(日本で最初の図画教科書)をはじめとする明治初期から昭和戦前期に至る美術教育関係資料。(貴重図書)	約3,800冊
梶文庫	本学元教授の梶外志子氏の旧蔵書。算数・数学教育を中心とする図書・雑誌・教科書など。	5,269冊

IFEL(The Institute For Educational Leadership)資料	IFELは、戦後文部省とCIE(GHQ民間情報教育局)が共催した教育指導者講習。この講習会の研究成果である「教育指導者講習研究集録」はIFELの実態を示す貴重な資料であり、特に本学で開設した小学校の管理や教育内容に関するものが多く含まれる。	186冊
プランゲ文庫雑誌コレクション	メリーランド大学のプランゲ文庫に含まれている戦後の日本占領下、特に1945年から1949年にかけて発行された資料のうち、教育関連の雑誌1,646タイトルのマイクロフィッシュ版。	3,918シート
戦後の教科書・指導書	小学校・中学校の教科書・指導書、高校の教科書について、各社から出版されたものを網羅的に所蔵。	約50,000冊
学習指導要領	幼稚園教育要領から小・中・高等学校、特別支援学校(養護・盲・聾学校)にわたって、学習指導要領を網羅的に所蔵。	約1,200冊
墨田民研資料	本学元教授故海老原治善氏を初代所長として、東京都教職員組合墨田支部(現墨田区教職員組合)により設立された墨田民主教育研究所が教育実践の研究を進めるため収集してきた資料群の一部。人権教育・同和教育・教育労働運動を主題とする図書・雑誌・機関紙など。本学に全学必修科目「人権教育」が開設されたことをふまえ、寄贈を受けた。	923冊
谷川俊太郎合唱コレクション 文庫《声のオーロラ》	詩人 谷川俊太郎氏から寄贈された自作の詩による合唱曲の楽譜約470冊のほか、同氏の詩集、音楽CD資料などを収蔵。2017年に本学音楽科教室が開催した合唱講座に谷川氏が講師として招かれ、その記録等を収めた書籍『声の世界を抱きしめます』(東京学芸大学出版会)を製作する過程で、同氏所蔵の合唱楽譜の寄贈を受けることになった。本コレクションは同書のために書き下ろされた詩「合唱」の一節から、文庫《声のオーロラ》と命名された。	約520冊

## 2) 海外関係

ドイツ教育学集書	1820年から1957年にかけてドイツで出版された教育学関係の図書、雑誌、モノグラフシリーズからなる。特に二つの世界大戦を含む1920年～30年代の資料が多い。[1978年国立大学大型コレクション]	2,478冊
英国教育学文献集成	1900年以降に発行されたイギリスの教育関係資料が中心。ヨーロッパ諸国等の教育関係資料も若干含まれている。[1979年国立大学大型コレクション]	2,011冊
フランス教育学集書	17世紀以降にフランスにおいて発行された教育論、教育史、教育方法に関する集書。[1980年国立大学大型コレクション]	176冊

ロシア・ソビエト教育研究雑誌コレクション	19世紀から20世紀のロシア, ソビエト連邦における教育関係の雑誌, 目録, 個人著作などをマイクロ化した資料(マイクロフィッシュ)。[1981年国立大学大型コレクション]	522シート
ヘボンその他の外国人編纂による日本語・東洋語辞書コレクション	ヘボンの『和英辞典』初版(1867)をはじめとする幕末から明治期に刊行された外国人による日本語・東洋語の辞典18種からなるコレクションで, 殆どが稀覯の原本である。[1983年国立大学大型コレクション](貴重図書)	25冊
欧米障害児教育基本文献集成	特殊教育に関する米, 英, 独, 仏の文献集成で, 1956年以降に刊行された図書を中心とし, 心理学, 教育学, 生理学全般を含むコレクションである。[1984年国立大学大型コレクション]	866冊
17世紀-19世紀フランス教育史コレクション	17世紀中葉から19世紀に出版されたフランス教育に関するコレクションで, 稀覯本を含む。[1989年国立大学大型コレクション](貴重図書)	262タイトル (276冊)
ルドルフ・シュタイナー文献コレクション	ルドルフ・シュタイナーの著作, 講演録418点と弟子たちの著作272点からなるコレクションで, 人智学, 神智学を中心に宗教, 教育, 芸術等の分野にわたる。[1993年国立大学大型コレクション](貴重図書)	690タイトル (740冊)
ERIC資料	ERIC (Educational Resources Information Center) が作成した教育関係の二次資料のうち, RIE (Resources in Education)に収録された原報(一次資料)をマイクロ化したもの。	470,827シート
外国教科書	フィンランド, ドイツ, フランス, 韓国などを中心に, 各国で使用されていた外国の教科書の資料群。1960~1970年代が中心。	約5,000冊

## 2. 電子ジャーナル

エルゼビア社のScienceDirect等約10,000タイトルを契約している。(令和5年4月現在)

サービス名	提供元	タイトル数
ScienceDirect	Elsevier	2,290
Arts and Sciences I Collection	JSTOR	182
Psychology & Behavioral Sciences Collection	EBSCO	469
Education Source	EBSCO	1,942
Academic Search Premier	EBSCO	4,645
合計		9,528



### 3. 電子ブック

Maruzen eBook Library等約14,000タイトルを購入している。(令和5年4月現在)

サービス名	提供元	タイトル数
Maruzen eBook Library	丸善雄松堂	1,151
KinoDen	紀伊國屋書店	157
EBSCO eBOOK Collection	EBSCO	135
Springer eBooks	Springer	13,796
Elsevier eBooks	Elsevier	11
合 計		15,250

### 4. オンラインデータベース (学内LANに接続したパソコンから利用可能なデータベース)

- ① 朝日新聞クロスサーチ
- ② MathSciNet
- ③ PsycINFO
- ④ ERIC
- ⑤ SciFinder Discovery Platform for Academics
- ⑥ Scopus
- ⑦ ジャパンナレッジLib (追加: 国史大辞典・角川古語大辞典)
- ⑧ D1-Law.com
- ⑨ 雑誌記事索引集成データベース
- ⑩ ナクソス・ミュージック・ライブラリー
- ⑪ LISTA(Library, Information Science & Technology Abstracts)
- ⑫ GreenFILE

### 5. CD-ROM, DVD-ROM (館内特定端末での提供)

- ① CD毎日新聞
- ② 明治の読売新聞, 大正の読売新聞, 昭和の読売新聞
- ③ 新編国歌大観
- ④ 角川日本地名大辞典
- ⑤ デジタル伊能図
- ⑥ 大漢和辞典

### 6. デジタル教科書 (館内特定端末および貸出PCでの提供)

#### ■小学校

科目	出版社	学年	タイプ	
			学習者用 (試用版)	指導者用
社会	東京書籍	5~6年	○	○
	日本文教出版	5~6年	×	○
	教育出版	5~6年	×	○
算数	大日本図書	1~6年	×	○
	東京書籍	1~6年	○	○
	教育出版	1~6年	×	○
理科	大日本図書	3~6年	×	○

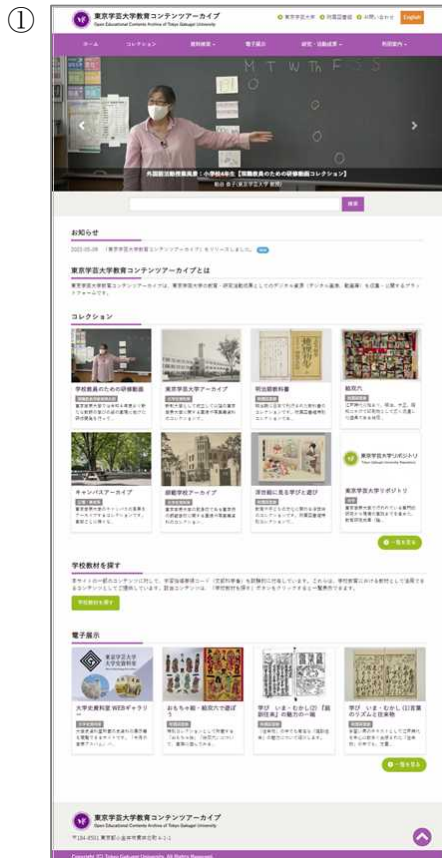
理科	東京書籍	3～6年	○	×
	教育出版	3～6年	×	○
生活	日本文教出版	上・下	×	○
図画工作	日本文教出版	1～6年	×	○
英語	東京書籍	5～6年	○	○
	教育出版	5～6年	×	○

### ■中学校

科目	出版社	学年	タイプ	
			学習者用（試用版）	指導者用
社会	日本文教出版	地歴公民	×	○
数学	東京書籍	1～3年	○	○
理科	大日本図書	1～3年	×	○
	東京書籍	1～3年	○	○
美術	日本文教出版	1～3年	×	○
英語	東京書籍	1～3年	○	○

## 7. 自館作成デジタルコンテンツ

- ① 東京学芸大学教育コンテンツアーカイブ（図書館資料の他、学内コンテンツを公開）
- ② 東京学芸大学リポジトリ
- ③ 学位論文データベース



# 施設・設備

## 1. 図書館施設

### 1) スペース利用状況

使用区分	面積	割合	備考
サービススペース	3,193㎡	39.8%	閲覧室等
収蔵スペース	2,450㎡	30.5%	開架書架を含む
管理スペース	635㎡	7.9%	
その他	1,747㎡	21.8%	カフェを含む
合計	8,025㎡	100.0%	RC地下1階地上3階建

### 2) 閲覧座席数等

事項		数量	備考
閲覧座席数		720席	
開架図書冊数		約144,000冊	
図書収容力*	棚板延長	25,458m	
	収容可能冊数	約826,000冊	開架閲覧+書庫

\*この他に、図書館の建物とは別棟の「外部保管庫」に約7万冊の収容力あり。

## 2. 主要設備

### 1) 図書館電動設備

設備	数量	備考
電動式集密書架	1式(2,774連)	地階書庫
入退館ゲート	3式	※平成27年4月導入 入館ゲート(2ゲート) 1式 書庫用ゲート(1ゲート) 1式 退館ゲート(1ゲート) 1式
ブックディテクションシステム	1式	IDEC BP2020-2



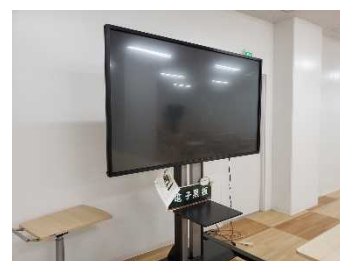
\*入退館ゲートおよびブックディテクションシステム

## 2)視聴覚機器

機 器	数 量	備 考
ビデオデッキ	5台	VHS 4台, β1台
LDプレーヤー	3台	
DVDプレーヤー	8台	ブルーレイ対応
CDプレーヤー	2台	MD複合機1台を含む
ステレオ装置	1台	

## 3)デジタル教科書提供用機器

機 器	数 量	備 考
電子黒板	2台	SONY製 75インチ
ノートPC	5台	



\*電子黒板

## 4)図書館コンピュータシステム主要機器

システム	機 器	機 種	数量
図書館システム (令和3年度更新)	業務サーバ, 情報サービスサーバ	ICTセンターシステム内仮想 マシン	2
	業務用端末	Fujitsu ESPRIMO D7010/F	29
	ネットワークプリンタ	RICOH SP6420	1
	ハンディターミナル	BT-600-R	4
	利用者用端末 (蔵書検索用)	Fujitsu ESPRIMO D7010/F	5
	利用者用端末 (情報検索用)	Fujitsu ESPRIMO D7010/F	4
	講習会用ノートPC	Fujitsu LIFEBOOK A7511/G	3
	自動貸出装置	住友スリーエム ABC-T1	1
図書館システムソフトウェア	LIMEDIO (RICOH)	1	
図書館Webサーバ (令和3年度更新)	Webサーバ	ICTセンターシステム内仮想 マシン	1
東京学芸大学リポジトリ	JAIRO-Cloud (Weko2)	国立情報学研究所のクラウ ドサービスを利用	1
デジタルアーカイブシ ステム (令和3年度更新)	デジタルアーカイブシステム サーバー	PRIMERGY RX2540 M5	1

## 5)ネットワーク設備

	地階	1階	2階	3階	合計
情報コンセント	-	134	90	21	245
無線LANアクセスポイント	-	3	4	1	8

# 統 計

## 1. 主たる利用対象者数

1)学生数 (令和5年5月1日現在)

学部学生	特別 専攻科 学生	大学院 (修士課程)	教職 大学院	大学院 連合 (博士課程)	その他の 学生	合 計
4,408	17	242	386	170	132	5,355

2)職員数 (令和5年5月1日現在)

学 長	理 事	監 事	教 員	附属学校運営参事	附属学校教員	職 員	合 計
1	5	2	278	1	340	216	835

## 2. 蔵 書

1)受入図書・雑誌数

		図 書 (冊)			雑 誌 (種)		
		和 書	洋 書	計	和雑誌	洋雑誌	計
令 和 4 年 度	購 入	2,892	145	3,037	371	61	432
	受 贈	1,399	62	1,461	440	8	448
	製 本	167	3	170	—	—	—
	除 却	2,036	931	2,967	—	—	—
	合 計*1*2	4,458 (3,916)	210 (145)	4,668 (4,061)	811 (666)	69 (21)	880 (687)

\*1 除却は含まない。 \*2( )内は附属図書館備付分

2)蔵書冊数

	図 書 (冊)			雑 誌 (種)		
	和 書	洋 書	計	和雑誌	洋雑誌	計
令和4年度末	693,773	219,272	913,045	8,445	3,331	11,776

3)視聴覚資料 (令和5年3月31日現在)

資料タイプ	タイトル数	資料タイプ	タイトル数
CD	2,082	LD	114
レコード	1,331	ビデオテープ	1,183
カセットテープ	206	DVD	1,787
映画フィルム(16/8mm)	230	マイクロフィルム/フィッシュ	178

### 3. 利用状況

#### 1)開館日数

年 度	平 日	土日祝日	合 計
令和4年度	235日	90日	325日

#### 2)入館者数

年 度	種別	平 日	土日祝日	合 計
令和4年度	総 数	205,594人	13,217人	218,811人
	1日平均	875人	147人	673人

#### 3)貸出冊数\*1

年 度	種別	平 日	土日祝日	合 計
令和4年度	総 数	36,642冊	3,916冊	40,558冊
	1日平均	156冊	44冊	125冊
	貸出者*1	16,372人	1,580人	17,952 (55)人

\*1 一日の貸出手続き利用者数の年間合計。( )内は1日平均。

#### 4)視聴覚資料利用状況

年 度	利用件数
令和4年度	270

#### 5)参考質問受付件数

		学 生	教職員	学外者	合 計
令和 4 年度	利用案内	90	29	17	136
	文献所在調査	191	97	30	318
	事項調査	14	11	6	31
	合 計	295	137	53	485

#### 6)学内複写(単位：枚数)

		学内者		学外者	合 計
		私 費	校 費	私 費	
令和 4 年度	カウンター内	1,565	1,091	366	3,022
	セルフ機	—	—	—	180,986
	合 計	—	—	—	184,008

#### 7)オーダーメイド講習会実施回数

年 度	春学期	秋学期	合 計
令和4年度	5	3	8

## 4. 相互協力

### 1) 文献複写(単位：件)

		学外への依頼			学外からの 受付
		校 費	私 費	合 計	
令和 4 年度	国 内	790	1,411	2,201	821
	国 外	3	0	3	3
	合 計	793	1,411	2,204	824

### 2) 現物貸借

年 度	借 用	貸 出
令和4年度	309冊	208冊

### 3) 関 覧

年 度	依 頼	受 付
令和4年度	9	52

## 5. 市民への公開

### 1) 貸出状況

年 度	登録者数*1	貸出冊数
令和4年度	0人	0冊

\*1 令和4年度末（令和5年3月31日）現在の総登録人数。

※令和4年度は新型コロナウイルスの感染症拡大防止のため、学外者の利用を制限し、利用者登録を行っていない。

## 6. 機関リポジトリ

### 1) 登録コンテンツ数

年 度	一次情報(本文データ)	二次情報(メタデータ)
令和4年度末現在	8,527件	24,907件

### 2) 東京学芸大学紀要(第74集)の発行(令和4年度)

部 門	掲載記事数(機関リポジトリ公開数)
総合教育科学系	67
人文社会科学系	11
自然科学系	17
芸術・スポーツ科学系	10

※第60集(平成20年度)以降、掲載論文はすべて機関リポジトリで公開している。第71集以降は、冊子体での刊行を中止し、電子でのみ刊行。

### 3)利用状況

年 度	アクセス数	ダウンロード数
令和4年度	173,758件	484,535件

### 7. デジタルアーカイブ 登録コンテンツ数

コレクション名	件数	コレクション名	件数
学校教員のための研修動画	64件	浮世絵に見る学びと遊び	73件
キャンパスアーカイブ	17件	往来物	2495件
東京学芸大学アーカイブ	11件	おもちゃ絵	64件
師範学校アーカイブ	14件	心学資料	105件
明治期教科書	2,102件	旧外地教科書	8件
絵双六	146件	その他教育史資料	359件

### 8. 資料費等予算 (単位：千円)\*1

			令和4年度
図書購入費(資料費)	附属図書館	図書費*2	18,868
		電子ジャーナル経費	19,832
		データベース経費	13,293
		その他	200(留学生経費)
		小 計	52,193
	研究室等	教員研究用図書費	26,307
		附属学校等図書費	51
		小 計	26,358
合 計		78,551	
製本費	図書館製本費	300	
	研究室等製本費	92	
	合 計	392	
総計		78,943	

\*1 附属図書館資料費は予算ベースの金額であるが、研究室等の資料費、および製本費は執行ベースの金額である。



# 広 報

## 1. 出版物

タイトル	刊行頻度
図書館利用案内	—
東京学芸大学附属図書館概要	年1回
東京学芸大学附属図書館かわらばん	年2回

## 2. ウェブサイト

サービス	URL
附属図書館ホームページ	<a href="https://lib.u-gakugei.ac.jp/">https://lib.u-gakugei.ac.jp/</a>
公式 Twitter	<a href="https://twitter.com/gakugei_lib">https://twitter.com/gakugei_lib</a>
E-TOPIA：教員を目指す学芸大生のためのページ	<a href="https://lib.u-gakugei.ac.jp/etopia">https://lib.u-gakugei.ac.jp/etopia</a>
東京学芸大学教育コンテンツアーカイブ	<a href="https://d-archive.u-gakugei.ac.jp/">https://d-archive.u-gakugei.ac.jp/</a>



※ 附属図書館ホームページ（2020年3月リニューアル）



※ 東京学芸大学附属図書館かわらばん

## 沿 革

昭和 24 年 5 月	東京第一師範学校，東京第二師範学校，東京第三師範学校及び東京青年師範学校を統合して，東京学芸大学が設置され，同時に附属図書館を設置 本館を世田谷地区に置き，他に 4 分館・1 分室を置く
昭和 30 年 3 月	3 分館・1 分室を小金井分館に統合
昭和 36 年 3 月	小金井地区に図書館施設を新築(図書館 1,765 m <sup>2</sup> ，書庫 808 m <sup>2</sup> )
4 月	小金井分館を本館とし，世田谷本館を分館とする
昭和 39 年 3 月	世田谷分館を小金井地区に統合
昭和 44 年 3 月	『一般教育読書案内』刊行。後に『共通科目のための読書案内』として，2009 年まで刊行(2006～2009 は Web 版のみ)
昭和 49 年 3 月	延床面積 6,241 m <sup>2</sup> の図書館新館を建設
8 月	自由閲覧室および開架閲覧室の一部を開館
9 月	全面的に開館
昭和 50 年 4 月	部課長制を導入，1 部・2 課(整理課，閲覧課)を設置
昭和 52 年 4 月	電算機(OKITAC 50/40)による閲覧業務を開始
7 月	電算機による図書受入業務を開始
昭和 54 年 5 月	電気通信大学と閲覧業務共同処理システムを開始(昭和 63 年 3 月まで)
昭和 56 年 3 月	情報検索端末装置を導入
昭和 56 年 8 月	電算機による雑誌受入業務を開始
昭和 61 年 3 月	ブックディテクションシステム(3M M-1850)を導入 電算機システムを更新(HITAC L-4701) 学術情報センター(現国立情報学研究所)ネットワークに加入
昭和 62 年 3 月	文献複写用ファクシミリ(キャノファックス Laser930G)を導入
昭和 63 年 4 月	整理課を情報管理課に，閲覧課を情報サービス課に名称変更
平成 2 年 4 月	電算機を更新(HITAC M620/20) 情報処理センターシステムに図書館サブシステムが設けられ，目録作成業務を開始(Data General ECLIPSE MV/2500DC)
6 月	オンライン利用者用目録(OPAC)の運用開始
平成 3 年 2 月	CD-ROM 導入
平成 4 年 4 月	ILL(Inter Library Loan)システムの運用開始
10 月	授業期の土曜日開館を開始
平成 6 年 2 月	電算機を更新(HITAC M-840/20)
7 月	自己点検・評価を実施
平成 7 年 1 月	授業期の日曜・休日開館を実施
2 月	本学教官の研究成果の収集を開始
平成 7 年 3 月	情報処理センターシステム，図書館サブシステムを更新(UNIX システム： LIMEDIO, CD-ROM サーバ)
7 月	自己点検・評価報告書『総合学術情報サービスに向けて ―自己点検・評価と将来計画―』を発行

平成 8 年 3 月	パソコン端末設置閲覧室及び情報コンセント等設置閲覧席を整備
5 月	図書館ホームページを開設
10 月	学術情報委員会発足
平成 9 年 3 月	特別資料閲覧室を設置し、視覚障害者用機器を整備 ブックディテクションシステムを更新(3M M-2301)
4 月	夜間大学院及び昼夜開講制開設に伴い、時間外開館を延長 新聞閲覧室にコピーコーナーを整備
10 月	望月文庫往来物資料のデータ入力を実施(平成 9 年度科学研究費補助金)
平成 10 年 1 月	教育史関係書誌のデータ入力を実施(平成 9 年度科学研究費補助金)
2 月	電算機を更新(SUN Ultra2 Model 2170) 入館管理システムを設置
3 月	特別資料閲覧室の視覚障害者用機器等を拡充整備 視覚障害者用点字ブロック等を設置
4 月	貸出制限冊数を変更
7 月	東京学芸大学自己点検・評価及び外部評価の一環として、附属図書館の自己点検・評価を実施
平成 11 年 2 月	望月文庫往来物資料の画像データ作成及び教育史関係書誌のデータ入力を実施(平成 10 年度概算要求補助金)
3 月	情報処理センターシステム、図書館サブシステムを更新(SUN Ultra30 Model 300) 図書の不用決定及び廃棄の基準を制定
8 月	1 階新聞閲覧室に自動販売機を設置
平成 12 年 1 月	望月文庫往来物資料の画像データを作成(平成 11 年度科学研究費補助金)
3 月	教育史関係書誌のデータ入力を実施(平成 11 年度科学研究費補助金)
6 月	全国国立教育系大学附属図書館協議会による読書実態調査を実施
平成 13 年 7 月	文献画像伝送システムの伝送テストを実施(国立大学図書館協議会東京地区協議会)
9 月	教育系電子情報ナビゲーションシステムを導入
10 月	GIF(Global ILL Framework)による日米 ILL/DD 試行運用に参加
平成 14 年 4 月	日米 ILL/DD 本格運用に参加
10 月	教育情報のポータルサイトである教育系電子情報ナビゲーションシステム(E-TOPIA)のサービスを開始
平成 15 年 3 月	情報処理センターシステムと図書館事務用電子計算機システムの契約を一本化 図書館エントランスの改修
4 月	学外者(本学卒業生及び現職教員)に対する館外貸出を開始 多摩地区国立 4 大学附属図書館(東京外国語大学、東京学芸大学、東京農工大学、電気通信大学)間の相互利用協定を締結 多言語対応 OPAC(オンライン目録)及び携帯対応版 OPAC を公開
6 月	Web サービスの拡大(図書購入依頼、相互利用申込、図書貸出予約) 教育実践データベースを E-TOPIA より公開
8 月	電子ジャーナルのアーカイブコレクション JSTOR を導入

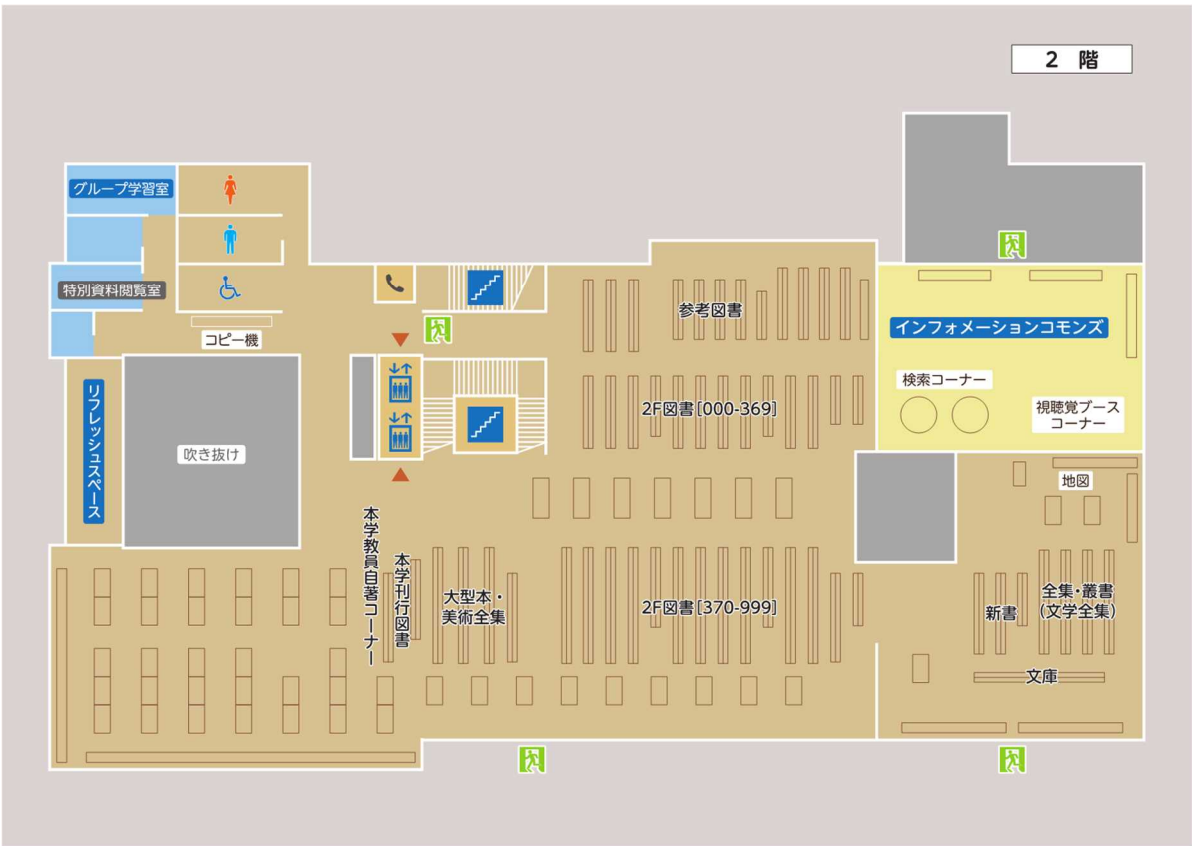
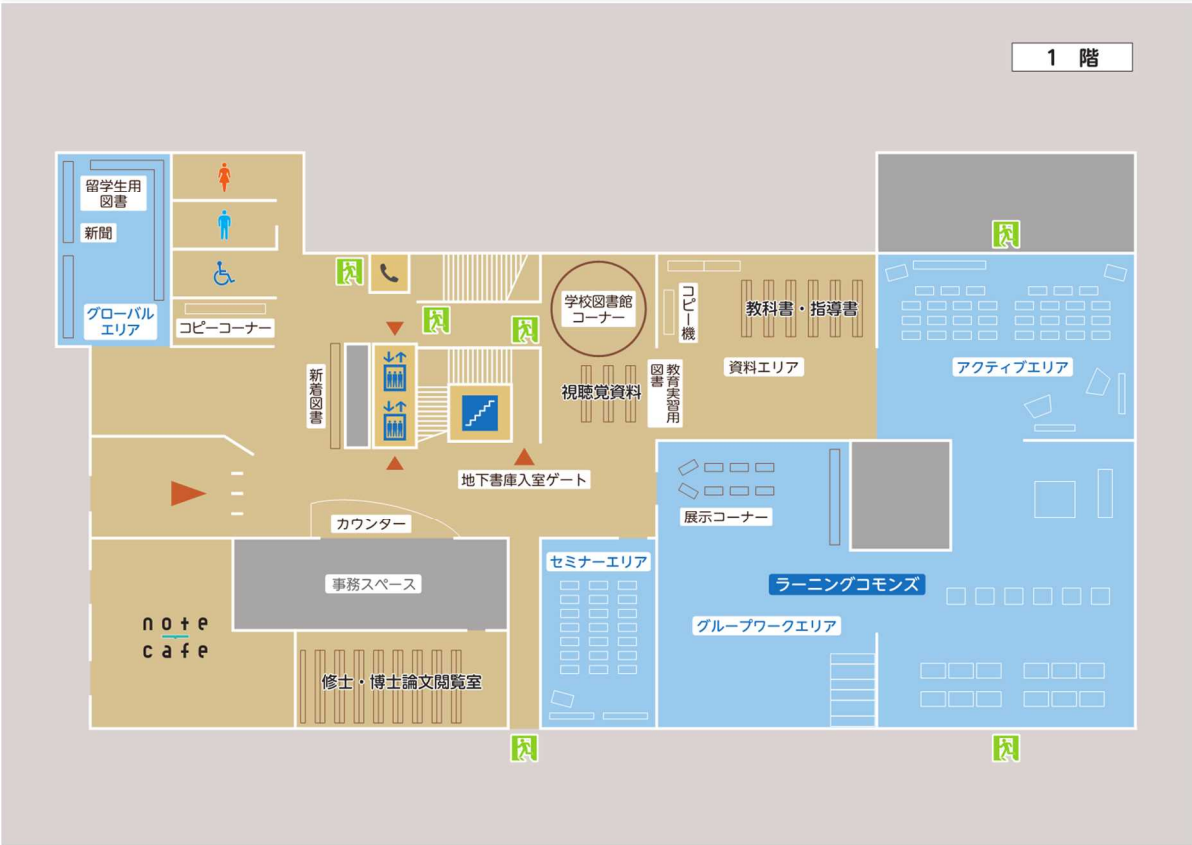
	日米 ILL/DD 現物貸借サービスに参加
10 月	月例休館日の廃止及び年末年始開館日の拡大
11 月	グローバル OPAC 横断検索システムを公開 学部生の書庫入庫を拡大
平成 16 年 3 月	閲覧室の無線 LAN を拡充
4 月	レファレンスデスクを 1 階閲覧室に移動 視聴覚資料, ノートパソコンの館内貸出電算化処理開始 国立大学法人化に伴い資産を新法人に継承 図書館事務組織を学術情報部に改組 学生証と図書館利用証を一体化
11 月	日韓 ILL/DD 暫定サービスに参加
平成 17 年 2 月	自動貸出機設置
3 月	指定図書制度廃止 1 階配架の教科書・指導書貸出停止 電子的授業支援サービス(ECR)の正式運用開始
4 月	2 階に論文閲覧室設置, 学位論文を書庫から移動 情報基盤整備室の設置に伴う学術情報部の改組 開館時間を 9:00 から 8:30 に変更
8 月	ピータイル床の部分改修(全館) 貸出カウンターとレファレンスデスクを統合し, サービスカウンターを設置
平成 18 年 2 月	1 階エントランスホール及びサービスカウンターの改修
3 月	館長室及び部長室の改修 往来物資料のデータ入力を実施(平成 17 年度科学研究費補助金)
4 月	院生用閲覧コーナー(3 階)の設置 「東京学芸大学リポジトリ」公開(国立情報学研究所委託事業) 『図書館ニュース』をリニューアルし, 誌名を『ライぶらり』とする
5 月	情報処理授業支援「情報の検索と活用」を実施(20 教室) ライブラリー・ランチタイム・コンサート(弦楽四重奏)を試演
平成 19 年 1 月	図書館天井のアスベスト除去工事と空調設備工事に伴い全館休館
3 月	図書館天井のアスベスト除去工事と空調設備工事を完了(全館) 院生用閲覧コーナーを改装 図書館システム(情報処理センター情報処理システムのサブシステムとして)を更新 マイライブラリーのサービスを開始 E-ラーニングシステム運用開始に伴い電子的授業支援サービス(ECR)停止 往来物資料のデータ入力を実施(平成 18 年度科学研究費補助金)
6 月	E-TOPIA のリニューアル公開
平成 20 年 3 月	明治初期教科書のデータ入力を実施(平成 19 年度科学研究費補助金)
4 月	学術情報課と情報基盤課の 2 課体制とした学術情報部の改組
8 月	地下書庫電動式集密書架の改修に伴い, 地下書庫を閉庫 附属小金井中学校生徒の職場体験学習受け入れ(以降, 毎年ではないが受け入れを行っている)
11 月	地下書庫電動式集密書架の改修を完了(17 単位中 13 単位の改修)
12 月	シンポジウム『教育系サブジェクトリポジトリの可能性を求めて - ネットワーク時代の教育情報発信を考える -』を開催(附属図書館 3 階 AV ホール)
平成 21 年 3 月	ブックディテクションシステムの更新(IDEA BP2020-2)

	図書館エントランスの改修 無線 LAN の更新(全館) 教育系サブジェクトリポジトリポータル公開
4月	音楽 DB「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」正式サービス開始 知識探索サイト「ジャパンナレッジ・プラス」正式サービス開始 「雑誌記事索引集成データベース」正式サービス開始 電子ブック「Net Library」正式サービス開始
7月	組織改編により学術情報課及び情報基盤課が教育研究支援部所属となる
9月	地下書庫電動式集密書架の改修に伴い、地下書庫を閉庫
10月	地下書庫電動式集密書架の改修を完了(17単位全ての改修完了)
平成 22 年 1 月	学校図書館運営専門委員会、授業に役立つ学校図書館活用データベース公開
3月	特別教育研究経費による貴重資料の修復・保存事業が完了(平成 21 年 4 月～)
5月	電子ジャーナルの見直しを行い「Academic Research Library」の次年度以降契約を中止決定 ジャパンナレッジに『国史大辞典』を追加
6月	貴重資料 1,095 点を電子化、デジタルアーカイブ「学びと遊びの歴史」を公開 教育実習図書の推薦先を「教育実習主任」に変え「教育実習用図書コーナー」を設置
7月	年 1 回の刊行となっていた広報誌『ライぶらり』を廃刊し、本と人をつなぐことを目的とした季刊の『まめリブ』を刊行(平成 24 年 1 月号で終刊)
8月	一般雑誌の見直しを行い、休刊を含む 18 誌を購読中止し、27 誌を新規購入
平成 23 年 3 月	平成 22 年 4 月・10 月の学生懇談会に続き、館長を囲む教員との懇談会を開催 「附属図書館リニューアルプラン 2011-2015 ー変革期に対応する東京学芸大学附属図書館の発展を目指してー」を策定
4月	機関リポジトリの運用管理業務を情報基盤課から学術情報課へ移管するために組織再編を行い「学術企画係」を編入 朝日新聞記事 DB「聞蔵」を「聞蔵 II」に切替
7月	「西村文庫」(美術教育関係コレクション)の設置、展示会を開催
8月	毎日新聞記事 DB「毎日 News パック」正式サービス開始
10月	図書館資料、電子ジャーナル、データベースを活用したレポート作成の指導助言を補助するため、本学大学院生による「学習サポータ」の実施を開始
平成 24 年 3 月	図書館システム(情報処理センター情報処理システムのサブシステムとして)を更新、学術機関リポジトリも更新の対象として含めた 情報処理授業支援を中止し、オーダーメイド講習会を開始 旧用務員室を児童書コーナー(ミニ学校図書館)へ改修
4月	大学史資料室を設置 明治初期教科書・往来物・教育関連資料等 1,336 点をデジタルアーカイブ公開
6月	データベースの見直しを行い「Ulrich's Web.com」の次年度以降契約中止決定
8月	「Web OYA-bunko」の正式サービス開始
12月	リンクリゾルバの導入
平成 25 年 7 月	「学術認証フェデレーション(学認 : GakuNin)」への参加により、GakuNin 対応の電子ジャーナル、データベースが学外から利用可能に
平成 26 年 5 月	附属図書館改修工事に伴う図書・什器移動のための臨時閉館(5 月 17 日～6 月 1 日)
6月	附属図書館改修工事開始

9月	データベースの見直しを行い「Australian Education Index」, 「British Education Index」の次年度以降契約を中止決定 附属図書館改修工事に伴う図書・什器移動のための臨時閉館(9月23日～10月7日)
12月	附属図書館改修工事に伴う図書・什器移動のための臨時閉館(12月17日～1月8日,10日)
平成27年3月	附属図書館改修工事完了 リニューアルオープン準備のための臨時閉館(3月28日～4月26日)
4月	学術情報委員会の下に「電子ジャーナル等検討ワーキンググループ」を設置し, 契約見直しを行う 「Education Research Complete」を「Education Source」に切替 海外新聞DB「Newspaper Source Plus」正式サービス開始 入館ゲートの導入 附属図書館リニューアル・プレオープン(4月27日)
5月	附属図書館リニューアルオープン(5月11日通常開館開始, 5月19日式典挙行)
7月	附属小金井中学校生徒の職場体験学習受け入れ(7/14(火)～7/16(木)) データベースの見直しを行い「Web OYA-bunko」, 「毎日 News パック」, 「Newspaper Source Plus」, 「Linguistics and Language Behavior Abstracts」の次年度以降契約を中止決定
9月	「学生協働ワークショップ in 東京 2015 ～大学図書館における学生協働の拡がり～」(於:早稲田大学 平成27年9月15日(水))に学習サポータ自らが積極的に参加して, 取り組みを発表
11月	「全学利用の電子ジャーナル・パッケージ及びデータベースに関するニーズ調査」を実施
平成28年1月	第3期中期目標・中期計画期間における附属図書館の使命と目標, 取り組みの策定
4月	土日祝日開館業務を外部委託にて実施開始 授業期の閉館時間を22時から21時30分に変更
8月	附属学校の学校図書館を使った授業事例の展示を開始
10月	古本募金を開始
平成29年1月	電子ジャーナル・パッケージの「American Chemical Society」, 「Cambridge Journals Online」, 「Oxford Journals」, 「SpringerLink」の契約を中止
3月	図書館システム, 学術機関リポジトリ(情報処理センター情報処理システムのサブシステムとして)を更新
10月～11月	図書館内での助け合い”One Action!”呼びかけポスターを作成 カウンター前に視覚障がい者用誘導マットを導入。優先席の設置 『図書館の障がい者支援』ミニ報告会を実施
11月	自主ゼミ等の授業外学習に関する調査を実施 「Terakoya☆ commons」構想について
12月	図書館キャラクターを学内公募
平成30年1月	電子ジャーナル・パッケージの『Wiley Online Library』の契約内容を変更(「購読誌+Fullコレクション」から「購読誌+STMコレクション」にダウングレード)
3月	学術情報委員会の下に設けられた図書館キャラクター審査委員会において, 図書館キャラクターが「まなぶんぶん」に決定 電子ジャーナル・パッケージの「PsycARTICLES」の契約を中止(代替として平成30年4月より「Psychology & Behavioral Sciences Collection」の導入を決定)

10月	図書館総合展のポスターセッション及びキャラクターグランプリに参加。ポスターセッションが出展者賞，キャラクターグランプリで「まなぶんぶん」が会場賞を受賞 谷川俊太郎氏から合唱楽譜寄贈の受入れを決定。文庫《声のオーロラ》と命名
平成31年1月	国立国会図書館・図書館向けデジタル化資料送信サービス提供開始
令和元(平成31)年 2月～5月	附属図書館の増築に伴う「図書館における学習環境改善のための調査」実施
10月	公式 Twitter 運用開始
11月	谷川俊太郎合唱コレクション《声のオーロラ》 オープニングセレモニー
12月	活動記録を主とした広報誌として『図書館かわらばん』をリニューアル刊行
令和2年1月	図書館増築工事着工 電子ジャーナル・パッケージの『Wiley Online Library』の契約を中止
3月	新型コロナウイルス感染予防のための諸対策を実施
4月	学術情報委員会が学系長を委員とした学術情報会議に改組 デジタルアーカイブにて公開している画像データの利用促進を図るため，無償・無許諾での利用を可能とする，「東京学芸大学附属図書館におけるインターネット上で公開するデジタルデータの複写等利用要項」を制定
4月～6月	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館（4月9日～6月1日）
6月	学芸大デジタル書架ギャラリーを公開
10月	国文学研究資料館と覚書を締結。日本語の歴史的典籍データベース構築に参加。
12月	学芸大デジタル書架ギャラリーが電子出版アワード 2020「エクセレント・サービス賞」及び LOD チャレンジ 2020「教育 LOD 賞」を受賞
令和3年1月	本学デジタルアーカイブ「学びと遊びの歴史」が「みんなで翻刻」に参加
3月	新 Web ページ公開（3月25日～） 教育系サブジェクトリポジトリポータル提供終了(主題情報付与は継続)
5月	図書館・教職大学院棟の増築工事完了
6月	新ラーニングコモンズ利用開始 学術機関リポジトリを新システム（JAIRO Cloud）に更新
12月	地下書庫電動集密書架設置工事・資料配置作業終了
令和4年1月	附属図書館リニューアルオープン（1月11日式典挙行） 1階に学校図書館コーナーを設置
3月	図書館システム，デジタルアーカイブシステム(ICT センター情報処理システムのサブシステムとして)を更新
4月	デジタル教科書コーナーの設置およびデジタル教科書閲覧用 PC の貸出開始
5月	東京学芸大学教育コンテンツアーカイブを公開
11月	「東京学芸大学デジタル教科書・教材に関する協定書」を教科書発行者4社と締結
令和5年3月	「E-TOPIA：教員を目指す学芸大生のためのページ」を公開 「国立大学法人東京学芸大学オープンアクセス方針」を制定

# 平 面 図







東京学芸大学附属図書館概要 2023（令和5年度）

発行日：令和5年7月10日

編集発行：東京学芸大学附属図書館

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

<https://lib.u-gakugei.ac.jp/>